

2011(平成23)年度

## 学生による授業評価アンケート集計結果に関する報告

経済学部 F D 推進委員長

### はじめに

2011年度の授業評価アンケート集計結果がまとまりましたので、ここに報告いたします。

経済学部では2002年度から授業評価アンケート調査を実施してきました。以後、学生のみなさんや教職員の協力によって実施を継続し、着実に授業の改善に役立ててまいりました。おかげさまで2011年度もまた無事実施することができ、現在、その結果が2012年度の講義に活用され始めています。

授業評価アンケート調査は、いうまでもないことですが、学部教育の実態を把握し、気づかなかつた問題を発見し、そして、改善していくための基礎資料となります。東洋大学経済学部を向上・発展させていくために、今後ともご協力をよろしく申し上げます。

### 1. 調査の実施概要

今年度の調査は、大略以下のように実施されました。これは2007年度以降、ほぼ変わっていません。

#### <実施時期>

春学期科目 2011年6月27日～7月9日

秋学期科目 2011年11月28日～12月10日

#### <調査形式>

2011年度は前年度までと比べ、アンケート(用紙)の内容、形式、集計方法などを大きく改めた上で、マークシートと自由記述を併せて実施しました。大きな変更は、以下の7点です。従来のアンケート項目の綿密な検討を行い、前年度までの質問内容を大幅に変更した、アンケート用紙は、一般講義の場合は両面1枚、ゼミの場合は片面1枚で、ともに記名式、複数(数名)の学生がアンケート用紙の厳封から講師控室への提出まで立ち会う、ゼミアンケートでは、経済産業省の提示する「社会人基礎力」の達成度が問えるようにした、教員自己評価は行わない、各質問について肯定の回答率を出す、講義アンケートについては知識獲得、授業満足度、出席状況、時間外学習、授業への取り組み姿勢に関する計5つの質問、ゼミ・アンケートについては課題発見力、計画力、主体性、

実行力、発信力、傾聴力、柔軟性、コミュニケーション力（＜「社会人基礎力」）に関する計8つの質問に対する回答結果を、学部全体等、他の母集団の回答結果との比較を含め、学習ポートフォリオとして年度末に個々の学生へ配布し、学生の学習態度の改善、適性の発見等に役立てる。

マークシート方式：質問項目17個（一般講義）、15個（ゼミ）（質問項目は表1と表2参照）

自由記述方式：「良い点」「改善すべき点」「その他」について

#### <実施対象科目>

授業評価アンケートについては、本年度は以下のような基準のもとで実施しました。これも2007年度以降の方法を踏襲しています。

専任教員

講義科目アンケートは2科目以上\*

ゼミアンケート（基礎・専門ゼミ）は2部ゼミ含め1～4年すべてで実施。

\* 科目選択の優先順位

必修科目、 選択科目。ただし必修科目が3つ以上の場合はその中から選択する。

非常勤講師： 1科目以上

#### <実施科目数>

実際の実施科目数や回答学生数などに関するデータは表3のようになります。回答率が50数%となっているのは、学生の出席率が低いからでしょう。講義に常時出席していない学生の回答が信頼性に欠けることはいうまでもありませんが、それにしても全体的に出席率が低いことは気にかかります。授業内容の改善の学生教育全般の改善に対する寄与度が、低くなることを意味するからです。

表1 一般講義科目アンケートの質問項目

設 問	設 問 文	2011	2007~ 2010	2006	2005	2004 秋期	
1	教員の話し方や説明は理解しやすかったですか？						
	2	黒板の板書は読みやすく書かれていましたか？ もしくはスクリーンに投影されるパワーポイントは読みやすく作成されていましたか？					
		3	教科書・参考書・配布資料は授業の理解に役に立ちましたか？				
	4	授業の進み方は適切でしたか？					
		5	授業のレベルは適切でしたか？				
			授業は要点を的確に押さえた構成になっていた。				
	6	教員は授業の準備をよくしていた。					
			教員は授業に情熱を持っていた。				
			6 シラバス(講義要項)に即した内容の授業が行われていましたか？				
	7	シラバス(講義要項)は履修選択や授業の予習・復習に役立った。					
			7 レポート、宿題、自習課題など、授業時間外の課題は適切に提示されていましたか？				
	8	8 授業は毎週休講なしに、開始・終了時間を守って、規則正しく行われていましたか？					
			教員は授業時間内・外の質問に快く応じ、適切な説明をした。				
9	9 教員は私語を注意するなど、受講者が講義に集中できる環境を作っていましたか？						
		10 あなたは、この授業のこれまでの内容を自分の知識とすることができましたか？					
11	授業内容は新しい知識やものの見方など自分にとって得るものが多かった。						
		11 あなたは、この授業の授業で得た知識を他者に説明できるようになりましたか？					
		授業内容は刺激的であり、対象分野に対する興味が高まった。					
12	この授業は有益であり、友人や後輩に推薦できるものであった。						
		12 この授業は全体的に満足のいくものでしたか？					
13	この授業にどの程度欠席しましたか？						
		私はこの授業によく出席した。					
14	この授業1回につき、平均してどの程度授業時間外学習をしていましたか？						
		私はこの授業の予習や復習をして意欲的に学習した。					
15	あなたは、私語・携帯電話・居眠り・途中入退室しない等のマナーを守り、真面目に授業に取り組みましたか？						
		16 この授業の黒板・マイク・スクリーンなど教室設備は適切でしたか？					
17	この授業の受講者の規模は適切でしたか？						
		履修要覧・講義要綱の内容、履修ガイダンスでの説明はわかりやすかった。					
	履修に関する質問に対して、教務課の窓口は快く応じ、適切な説明をした(質問にいった人のみ)						

表2 ゼミアンケートの質問項目

設 問	設 問 文	2011	2008 ~ 2010	2007
	説明会の実施方法は適切だった。			
	志願書の提出方法は適切だった。			
	2次募集の方法は適切だった。			
	説明会・募集要項等において、ゼミの内容の事前周知はわかりやすかった。			
1	授業の到達目標は、授業開始時等に明確に示されていた。			
2	ゼミの運営方法は、到達目標達成のために適切であった。			
3	授業は毎週休講なしに、開始・終了時間を守って、規則正しく行われていた。			
4	現状を分析し、問題や課題を明らかにする力がついた。＜課題発見力＞			
	問題を発見し解決する能力が身についた。			
5	課題や問題解決に向けた手順を明らかにし準備する力がついた。＜計画力＞			
6	自ら進んで学ぶ姿勢が身についた。＜主体性＞			
7	目標を設定し、それに向かって積極的に行動する力がついた。＜実行力＞			
8	図書館・パソコン等を通じて情報収集能力が高まった。			
9	経済や社会に対する理解が深まり、幅広い見方が身についた。			
	経済や社会に対する関心が高まった。			
10	自分の意見を分かりやすく伝える文章作成能力・発表能力が身についた。 ＜発信力＞			
	文章作成能力・発表能力が身についた。			
11	他のゼミ生の意見や発表を丁寧に聞く力がついた。＜傾聴力＞			
12	意見の違いや立場の違いを理解する力がついた。＜柔軟性＞			
13	教員やゼミ生と円滑に話し合えるコミュニケーション力が身についた。 ＜コミュニケーション力＞			
14	他のゼミ生や教員と有益な交流ができた。			
15	このゼミは自分にとって有益だった。			

表3 学生による授業評価アンケートの実施科目数・受講者数・回答率(2011年度)

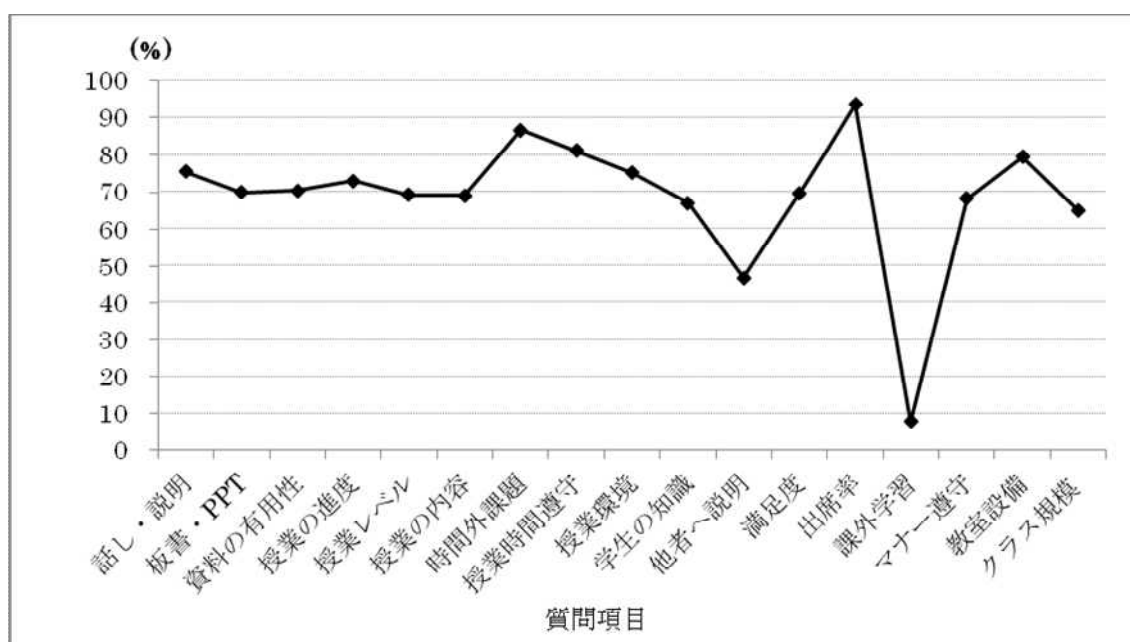
		実施科目	実施科目 履修者数	有効回答数	回答率
一般講義アンケート					
春学期	専任	64	7,763	4,549	58.6%
	非常勤	60	5,696	3,370	53.5%
春学期計		124	13,459	7,594	56.4%
秋学期	専任	90	12,594	6,076	48.2%
	非常勤	51	3,599	2,042	56.7%
秋学期計		141	16,193	8,118	50.1%
2011年度合計		265	29,652	15,712	53.0%
ゼミアンケート					
2011年度合計		161	3,308	2,691	81.4%

## 2. 一般講義科目の集計結果

### 2-1. 学部全体の平均

図1には、2011年度の経済学部全体の平均が示されています。最も高い肯定回答率を示した問13は出席率、最も低い肯定回答率を示した問14は授業時間外学習を表しています。なお、上の「1. 調査の実施概要」で断ったように、2011年度からアンケートの内容が前年度と比べて大幅に変わったため、経年変化の比較は2012年度より行う予定です(以下同様)。

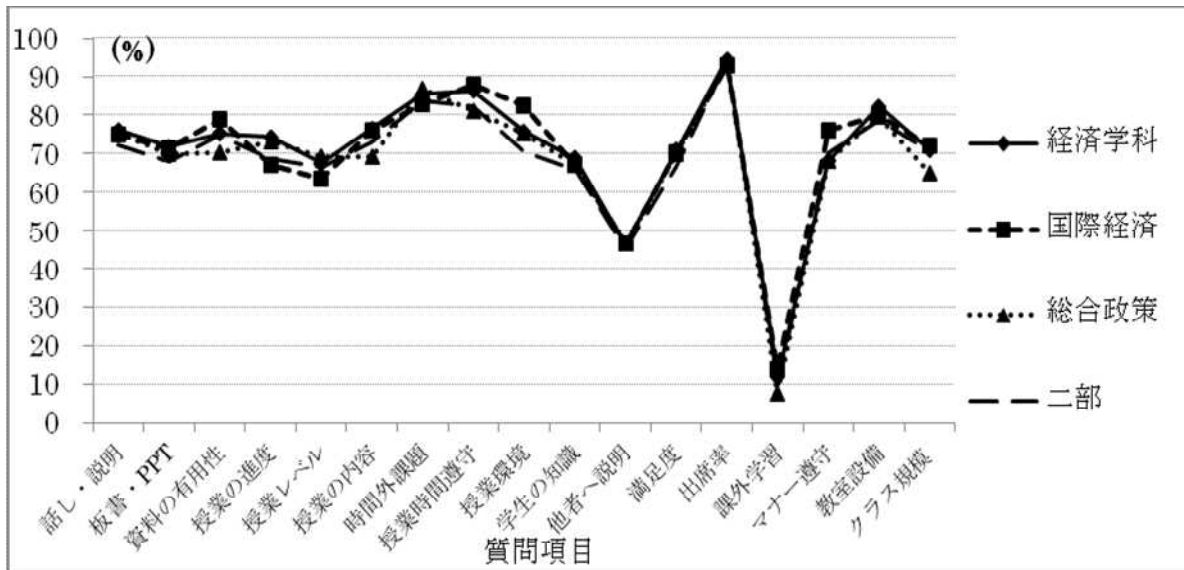
図1 一般講義科目：学部全体の動向



### 2-2. 学科別の動向

ほとんどの設問について、学科間でそれほど大きな違いは見られません。ただし問15(学生の私語)、問9(私語への教員の注意)に関して、教員が注意し学生の私語が少ない学科と、教員の注意がやや不足し学生の私語がやや多い学科の相違が大きくなっています。問3(配布資料)についても学科間の相違がやや目立つ点は、学科によってアンケートの実施科目が異なることから説明できるかもしれません。より有効な分析については、2012年度以降、学科ごとの全体平均の経年変化の整理を待つこととなります。

図2 一般講義科目：各学科平均の比較



### 2-3. 科目グループごとの集計結果

科目ごとに事情が異なる点を考慮して、科目グループごとの集計、すなわち、専門必修、専門選択、一般教養、語学必修および語学選択の5グループに分けて、それぞれの平均値を求めています（図3・4）。

図3 一般講義アンケートの科目グループ別平均の比較（2011年度）

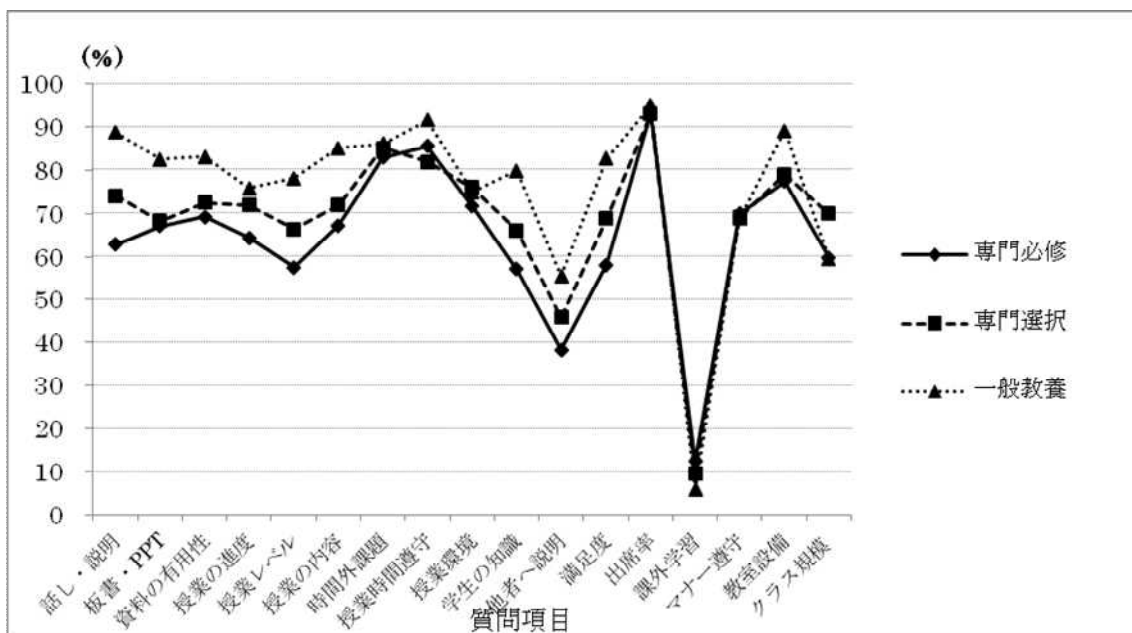


図4 一般講義アンケートの科目グループ別平均の比較 (2011年度)

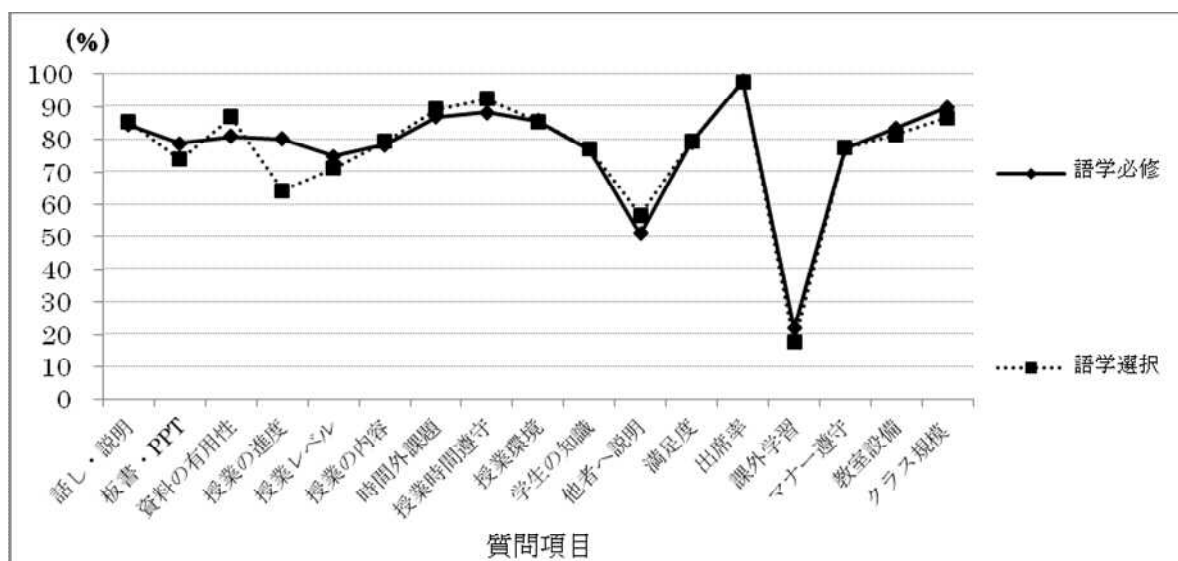


図3はクラス規模の大きな講義が多い一般教養、専門必修、専門選択、図4は比較的クラス規模の小さな語学必修、語学選択について図示しています。最も重要な指標である問1（理解度）、問12（満足度）について肯定回答率を比較すると、一般教養 > 語学選択 > 語学必修 > 専門選択 > 専門必修となります。語学科目と専門科目をそれぞれ必修、選択で分けて考えると、必修科目の方が選択科目よりも低評価となりますが、これはやむをえない傾向と言えます。

#### 2-4. クラス規模別の集計結果

経済学部の授業評価アンケート調査では、受講者数でみたクラス規模別のデータも集計しています。これは表4に掲げてあります。

平均値をみますと、やはりクラス規模の小さい40人未満がおおむね最高となっており、クラス・サイズが大きくなると肯定回答率が下がる傾向が見て取れます。実際に講義を受けている学生の皆さんも感じているように、クラス規模は小さい方が学習しやすく、今後も引き続き、大規模クラスの削減を進める必要があると言えます。

とはいえ問4（進度）、問5（レベル）、問7（授業時間外学習）等は、クラス・サイズの違いからそれほど大きな影響を受けていません。これは、教員が努力すれば、講義の環境や理解度はそれなりに改善されることを示しているのでしょう。



表4 一般講義アンケート評価のクラス・サイズ別平均の比較（2011年度）

科目別	40人未満	40人以上60人未満	60人以上100人未満	100人以上200人未満	200人以上300人未満	300人以上
設問1	84.8	79.4	77.7	76.6	71.6	68.2
設問2	77.7	74.9	73.4	71.2	68.4	65.3
設問3	82.8	76.9	75.7	74.9	73.4	67.4
設問4	76.1	66.8	69.4	71.4	71.2	71.6
設問5	71.7	64.8	65.3	68.8	64.0	67.7
設問6	78.7	72.6	75.5	74.0	71.9	70.0
設問7	87.0	81.6	85.3	86.6	83.6	84.0
設問8	89.2	80.1	86.2	83.8	84.3	81.7
設問9	85.2	79.0	75.6	79.3	74.5	66.7
設問10	77.9	73.5	70.0	68.9	63.3	60.7
設問11	53.9	55.8	46.6	48.4	43.6	40.6
設問12	79.7	76.5	71.7	71.5	67.3	61.1
設問13	97.5	95.4	94.9	93.0	93.1	92.0
設問14	19.4	17.8	11.7	8.5	8.7	10.5
設問15	78.1	76.9	69.7	69.8	70.7	63.2
設問16	85.2	77.5	81.0	81.7	78.2	78.0
設問17	86.8	80.8	79.4	73.6	58.1	56.0

### 3. ゼミナール科目の集計結果

次に、ゼミアンケートの集計結果を紹介します。以下に掲げるのは、基礎、専門を問わず1～4年にわたって開講されるゼミの全クラスについて実施された調査の結果です。

ゼミナール（基礎ゼミ）については、学科間で相当大きな差異が生じております(図7)。授業の内容・方法を示す問1～3については経済学科、学生自身の成果を問う問4～15については総合政策学科が他の3学科をかなり引き離しております。国際経済学科の肯定回答率が低目である一因としては、ゼミAの多くを語学の教官が担当しており、「社会人基礎力」の涵養を睨んだ専門ゼミと同様の新しいフォーマットのアンケートに、授業を通して対応しきれなかったことも考えられます。

ゼミナール～（専門ゼミ）については、国際経済学科の肯定回答率が全般的に高くなっております。なお基礎ゼミ、専門ゼミを問わず、問14（他のゼミ生、教員との交流）の肯定回答率が比較的低いのは、解決すべき課題と言えましょう。

図5 ゼミナール アンケートの学科別平均の比較（2011年度）

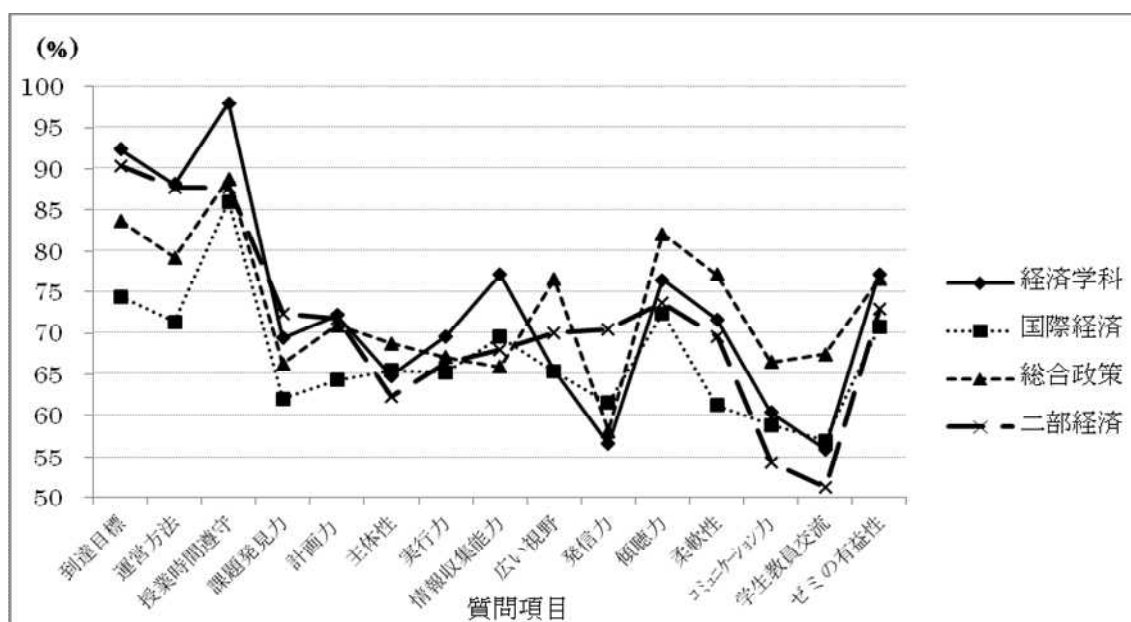
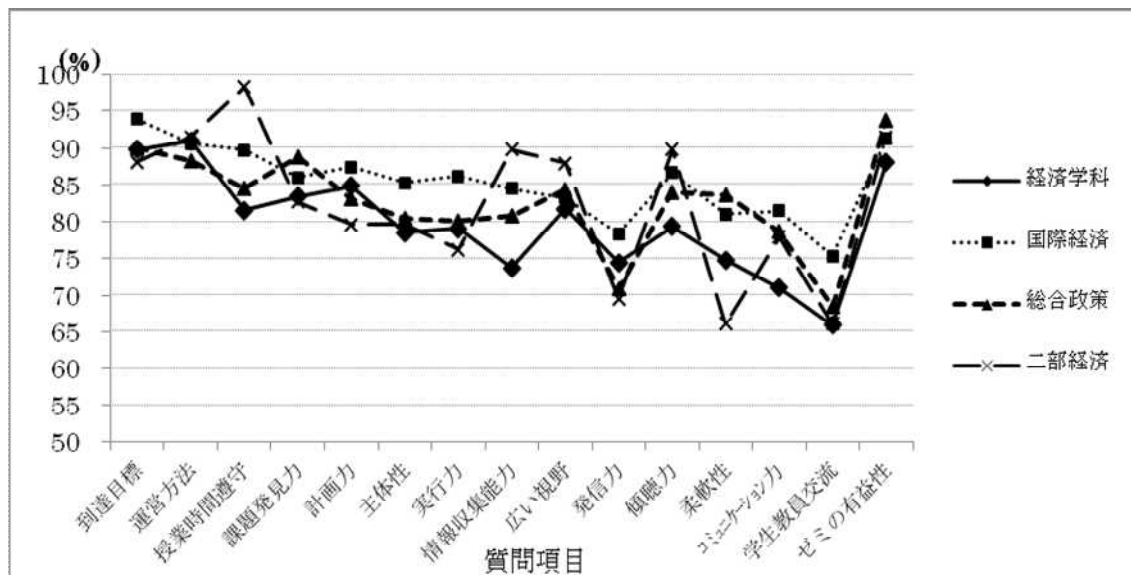


図6 ゼミナール ~ アンケートの学科別平均の比較（2011年度）



通常の講義よりも受講生と教員との距離が近く、また、学生同士も親密になりやすいゼミナールの満足度や理解度が一般講義よりも高くなるのは、当然といえます。ただ、このことから、ゼミの運営や指導方法の改善を考慮する必要がない、とまでは言い切れません。実際、学科間に差異が生じるのは、運営方法などに改善の余地があることを示唆していると思われます。

## おわりに

授業評価アンケートの結果から、学部教育を改善していくための役立つ情報を数多く引き出すことができることは、これまでの経験から明らかです。2011年度の場合もその例外でないことは、上述の観察事実によって裏付けられています。

もちろん、アンケートの集計結果から得られる情報には限界もあります。しかし、客観的なデータを参考にしながら学部教育を改善する姿勢を常に持ち続けることは、直感や日頃の印象による思い込みを修正し、学生のみなさんの理解度・満足度を向上させていくうえで非常に有効であると、私たち教員一同は考えております。

こうしたアンケート調査をさらに充実させ、学部教育の改善を図るために、中期計画の区切りとなる今後3年間は、新しいフォーマットの授業評価アンケートを継続し、経年変化の観察を行う予定です。教育改善に際しては、アンケートの回答者である学生の皆さんの真摯な協力が不可欠です。今後とも授業評価アンケート調査に対するご理解とご協力のほど、どうかよろしく申し上げます。